



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 42 号

発行 : レムナントキリスト教会

価格 : 100円(送料込みで200円)

〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「求めよさらば与えられん」 エレミヤ
- ◎ 聖書の中の人々「アブラハムの息子イサク」
- ◎ イエス・キリストに出会う「復活されたイエスと弟子達」
- ◎ キリストを信じた体験談「ルームスラックス」 by S
- ◎ 聖書の教えのエッセンス
- ◎ 聖書通信講座のご案内

<聖書からのメッセージ >

「求めよさらば与えられん」 by エレミヤ

本日は「求めよさらば与えられん」との題でメッセージをしたいと思います。テキストは以下です。

マタイ7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

7:8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

私たちがこの世に生まれて何の問題も不幸も起きないならそれに越したことはないのですが、残念ながら、問題に会うことがあります。病にあつたり、また経済的に貧困で暮らせなかったり、はたまた職場の人間関係で悩んだり、そんなことが誰にもあるのです。

そんな問題にあつたとき、そしてそれが自分の手ではどうにも解決しようもない問題であつたとき、自分で絶望したり失望したり、気落ちしそうになるかもしれません。

しかし、聖書には私たちが人生で出会うあらゆる問題や、不幸、難問を解決して下さる神様の存在に関して語られていることを忘れてはいけません。いいえ、私たちはこのことをはっきりと知るべきです。

上記テキストで神は私たちが、病や問題、トラブルで悩み、解決に悩んでいるとき、その時、神に「求め、捜し、門をたたく」ことを薦めているのです。そして単にそのような良い考えがある、思考方法がある、「神様がいると思っていたほうが精神的に良い」と思うことにとどまるのではなく、実際に神に求める、というアクション、行動、祈り、願いを神にささげることに関して語り、それを私たちに薦めているのです。

「求めよさらば与えられん」 by エレミヤ

「だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。」とは、まさにそのような私たちの行動や、実際にアクションを起こし、神に求めることを薦め、うながすことばなのです。ただの気休めとして書かれているわけではありません。

逆にいうなら、ある人が聖書の良いことばを見たり知っていたりしていてもその人が実際に神に求めず、捜さず、門をたたかないなら、その人には何かが与えられることもなく、問題が解決することもないでしょう。

かくのごとく聖書の語る神の存在また神に祈る、ということはリアルなことがらであり、ただ抽象的な理論だったり、頭で理屈をこねてどうこうという問題ではないのです。

これは人間の世界でも当たり前のことがらです。私たちがあのコンビニのおでんが食べたい、と100回思っても、何の行動も起こさなければ、1年経っても2年経ってもそのおでんを食べることはできないでしょう。しかし、実際に行動を起こして、そのコンビニに出かけて、そのレジでおでんを注文すれば、そのおでんを実際に食べることが可能です。人間の世界でも求めない人には与えられないのです。

同じく、神様もリアルな方であり、我々が行動を起こし、実際に神に求め、探し、門をたたいて、始めて神は我々に対して、必要なことを与え、見つけだし、門を開いてくださる方であることを知るべきなのです。

聖書の福音書を読むとき、多くの方がイエスを通して病をいやされ、助けを受けた記事が書かれています。しかし、それらの記事をよく読むとそれらのいやされた人々に共通のことがらがあることがわかります。それは、それらいやされた人々はみな、まず始めに神に求めイエスに求めた、ということです。その後、癒しがおこなわれたのです。本人は何も求めず、願ってもいないのに、キリストが勝手に病をいやした、という例はないのです。たとえば、長い間長血（婦人病）に悩まされ

ていた女性のいやしに関して聖書は以下の様に記載します。

マルコ5:25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。

5:26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっただが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。

5:27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。

5:28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と考えていたからである。

5:29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。

ここでは長い間、長血（婦人病）をわずらっていた女性が描かれています。彼女は、イエスのことを聞き、そして単に聞くことにとどまらず、イエスに自分の病のいやしを求め捜し、門をたたく行動にでたのです。具体的には、イエスに近づき、そしてたとえイエスの着物であってもそれに触ることができれば自分の病は必ずいやされると考え、実際に手を伸べその着物にさわったのです。

そしてその時彼女の願いはかなえられ、その病はみごとにいやされたことが描かれています。そうです、単に聞くこと、知識的に知ることと実際に行動を起こし、求め、願うことは異なるのです。そして実際に求め、捜し、門をたたく人はその解決を得ます。その問題が肉体の病であろうとそれ以外の悩みであろうとです。

実際に神に求め、捜し、門をたたくものは開かれる、このことは私の人生でも真実でした。あれは40代の頃でしょうか。六本木の小さな貿易会社に勤めていた私は、心の中で深い渴望を覚えていました。

「求めよさらば与えられん」 by エレミヤ

それは、何とか神に仕える時間が与えられたい、時間の余裕のある職場へ移りたい、という願いでした。私は今の会社勤務すなわち遠い都心まで長い通勤時間をかけて通い、朝から晩までこの世の仕事に使え、働き尽くめの生活にうんざりしていたのです。小さな会社なので、まともな休みもなく神に仕える時間の余裕など残念ながらありませんでした。

それで何とか時間の余裕のある会社に移り、神に仕える生活に入りたい、そのように思っていたのです。そうしたら、神に求める良い機会が与えられました。その年の5月の連休の時、3日ほど教会のみなで栃木の祈禱院（祈る場所）へ行き祈る機会がありました。そこに参加した私は3日間の間、ただ、ひたすら、私の仕事の転職のことだけを課題として神に祈りました。

「通勤距離が一時間以内、夏の休みも正月の休みも与えられ、有給も年に1週間以上、給料も今より高い職場を与えてください。」勝手な祈りの様に思えますが、しかし、神に仕える働きに入るにはこれらは必要なことだったので、このような具体的な祈りを3日間、必死に祈りました。そうです、私は神に求め、捜し、門をたたいたのです。その後どうなったのでしょうか？

不思議なことが起こりました。その年の10月、私は、転職をしました。そして転職したあと、わかったことはその職場は私の祈った全ての祈りが答えられた職場だった、ということです。通勤距離も1時間以内、そしてそれ以外の祈りもみな、答えられていました。そしてその職場へ移ったことを契機に私は神学校へ通うようになり、その結果、こうやって神に仕える牧師の仕事をおこなえるようになりました。この時の祈りが私の人生の大きな転機だったのです。

そうです、神は確かに存在しておられ、私たちがその神を信じ、この方に求め、捜し、

門をたたくなら、答えてくださる、そのことを知しましょう。

<天の父>

私たちが祈りが答えられるその際、一つ聖書が語っているポイント、天の父ということにも気をつけるべきです。以下のことばです。

マタイ7:10 また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

7:11 してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さないことがありますでしょう。

ここでは、神が天の父として私たちの祈りや求めに答えてくださることが書かれています。しかし、全ての人が神を天の父とするわけではなく、また全ての人が神の子であるとは限りません。逆に聖書は、キリストを受入れた人は神の子となる特権が与えられることを語ります。以下の通りです。

ヨハネ 1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

キリストを心に受入れ、神の子となり、天の神を父と呼ぶ特権を与えられる時、私たちの祈りは大いにきかれるようになります。このことをも知しましょう。—以上—



祈って職場が与えられた

聖書の中の人々「アブラハムの息子イサク」

イサクは信仰の父とよばれているアブラハムの息子です。アブラハムの妻サラは不妊であり二人には長く子どもがいませんでした。そのため神様が、子どもを与える約束をされます。しかしサラは、なかなか子供ができなため、エジプト人の女奴隷ハガルをアブラハムのそばめとすることを決めます。女奴隷ハガルはイシュマエルと言う息子を産みますが、このような経緯で生まれたイシュマエルは神様との「約束の子」ではありませんでした。

そしてアブラハム100歳、サラ90歳という高齢になったとき、「約束の子」イサクが生まれました。神様はイサクの子孫によってすべての国々は祝福されると約束されました。イサクという名前は「彼は笑う」という意味です。アブラハムが99歳となったとき神様が、サラに子供が生まれると告げます。その際、心の中で笑ったゆえに子供の名はイサクと名付けられたのです。

そしてイサクが成長した時、神様が、アブラハムに大きな試練を与えられます。約束の子であるイサクを全焼のいけにえとしてささげよと命じられたのです。アブラハムは従い、愛する息子イサクとともに神の示す山にむかいます。この試練をイサクは知らされていませんでした。この時のことが創世記22章に記されています。

創世記22：7～10

イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク。」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた。アブラハムは手を伸

ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

アブラハムがイサクをほふろうとしたまさにこの時に、主の御使いが止めます。神様はイサクの代わりに全焼のいけにえの雄羊を与えられたのです。過酷な試練の中、アブラハムは約束の子イサクによって多くの子孫が増えるという約束の言葉を信頼し、神様が必ずイサクを蘇らせると信じていたのです。そして神様は信仰深いアブラハムを祝福されました。

また、イサクも父に逆らいませんでした。父アブラハムのされるままに縛られ、たきぎの上に置かれたのです。成長したイサクは、父に抵抗して逃げることもできましたが、そうはしませんでした。神の命令に従順であり、彼も神様と父アブラハムを信頼していたのです。そして、この従順なイサクの姿は、父なる神の意志に従い、私達の罪の身代わりとなって十字架にかかられたイエス・キリストの姿と重なります。

その後イサクは、神の導きによりリベカを妻にします。リベカは双子の息子エサウとヤコブを産み、彼らから多くの子どもが生まれていきます。神様の約束通り、約束の子イサクから多くの子孫が増え広がったのです。



アブラハムとイサク

イエス・キリストに出会う「復活されたイエスと弟子達」

イエスが十字架刑で私達の罪の身代わりとなられた後、どのようなことがあったのでしょうか。その日の夕刻、弟子であることを隠していた有力議員アリマタヤのヨセフがイエスの遺体を引き取り墓に安置します。安息日が明けた翌朝、マグダラのマリヤと数人の女たちは、埋葬の準備に墓へ行きますが墓の中は空でした。墓にいた御使いがイエスの復活を告げ、イエスは女たちの前に現れるのです。彼女らはイエスの復活を弟子たちに伝えますが弟子たちは、「ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。」(マルコ16:11)とあります。その後二人の弟子がエマオへ向かう道中にイエスに出会いましたが、それを聞いても弟子たちは信じません。全くイエスの復活を信じない弟子たちに、イエスは現れてくださいました。

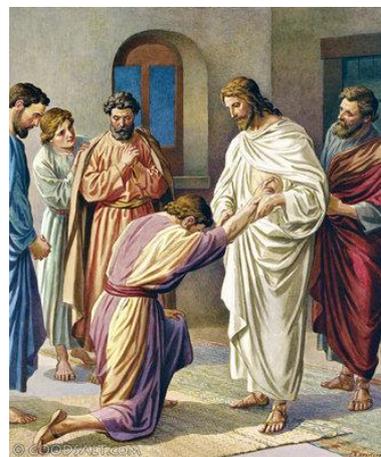
ルカ24:37~43 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。すると、イエスは、言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。私は持っています。」それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは「ここになにか食べ物がありますか。」と言われた。それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

復活されたイエスを見て、驚き恐れ取り乱す未熟な弟子たちでした。イエスは彼らが確信を持つように証拠として魚を食べられました。しかし12弟子のひとりであるトマスはその場所にいなかったため、彼は頑なにイエスの復活を信じようとしません。

ヨハネ20:25~27 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉ざされていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

疑い深いトマスのことをイエスは良くご存知であり、彼が信じるようにしてくださいました。トマスは「私の主。私の神」と答えます。それに対してイエスは「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」(ヨハネ21:29)と言われました。

さらにその後40日の間イエスは多くの弟子たちに幾度も現れ、復活の証拠を示され、「彼らが見ている間に上げられ雲に包まれて見えなくなられた。」(使徒1:9)のです。頑なで人を恐れ臆病であった弟子たちは別人のように変わり、死を恐れず福音をつたえるものとなりました。そして多くの弟子は殉教しました。今は当時の弟子たちのようにイエスと会うことはできません。今の時代の私たちにイエスは「見ずに信じる者は幸いです」と言われています。



復活のキリストとトマス

キリストを信じた体験談『ルームスラックス』 by S

先日、12年間着用していた冬用のルームスラックス（パジャマのことです）とお別れすることになりました。たしか1000円ぐらいだったと思うのですが、購入後5年ほど経てから、ほぼ毎年のように、ウエストのゴムを入れ替えて使用していました。ところがここ2～3年前から、ゴムを通す部分の布のところが少しずつほつれてきてしまいました。

それでも何とか頑張っていたのですが、つい最近、ゴムを替えようとしたときに気付いたのですが、ゴム通しの部分があちこち破れていました。その時に「あと、一年だけ」と思ってチャレンジしたのですが、全くのお手上げ状態でした。ああ、いよいよこのスラックスともお別れかぁ・・・と少し残念に思いつつも、近々新しいものを購入しなければなぁと考えました。ふと、その時にある方が言われたことを思い出しました。

「私ね、何か新しく購入する場合に必ず祈ってからお店に行くの、そうするとね、失敗がないの」と以前私に話をされた方がいました。そこで私も「神さま、安くて良いものを買えますように」とひと言お祈りして、近所のスーパーに出掛けました。

衣料売場に足を運ぶと、結構色々なタイプのものが置いてあったのですが¥1400（税別）のものに目が留まりました。それほど高くはないと思い、一瞬買おうかどうか迷いました。しかしその時に「もう一軒、別の所も見たほうが良いのでは？」という思いが心に來たので、他へ行ってみることにしました。そこは普段からよく行くスーパーでしたが、衣料売場に行くことは滅多にありませんでした。早速見てみると、さっき見たお店と同じようなものがありま

した。そして値段もほぼ一緒だったのですが、下線が引いてあって、「値下げ¥899（税別）」と表示されていました。さらにその日は、20%OFFのサービスをやっていたので、税込みでなんと、¥670になりました。しかも、そこで使える買い物のポイントカードには、いくらポイントが貯まっていたので合計¥0でした。

もし、はじめに行ったところで購入していたら、このような結果にならなかったのですが、しかし、その時に來た心の思いは神さまからだったのでは？いや、きっとそうだ！私の小さなお祈りにこたえてくださったのだ、とあって、とても嬉しくなりました。これからもどんな些細なことも、お祈りしていこう！と思わされた一件の出来事でした。さいごに私にアドバイスくださった神さま（イエスさま）のことについて書いている聖書のことばを読んで、証を終わりにしたいと思います

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。旧約聖書〔新改訳〕：イザヤ書9章6節



ルームスラックス

聖書の教えのエッセンス

<全ての人の人生に2つの定まったことがあります>

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き(裁判)の座につくことです。裁判の結果、ある人は永遠の命を受け、ある人は火の池に投げ込まれます。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき(裁判)を受けることが定まっているように、

私たちはそのさばき(裁判)の時、神の律法(法律)に従い、私たちの人生におけるあらゆる行い、ことば、意地悪、悪意、姦淫、暴力、盗みなどを裁かれます。そして有罪となれば、その罰として火の池で、自分の悪い行いの報いを受けるようになります。

<罪の罰として死後火の池に投げ込まれます。>



黙示録 20:15 いのちの書に名のある者でない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

私たちはその日、自分の人生で犯したあらゆる罪や、不正、嘘、意地悪、悪口、陰口、非難、不満の罪の代価を全て火の池の罰で払うようになります。

<神は私たちが滅びに至らないため、救いの道を用意しておられます>



それは、私たちの罪の身代わりとしてキリストが十字架で死なれたという方法です。聖書によれば、キリストは神のひとり子(たった一人の子供の意味)なのですが、神はその命を犠牲にして私たちに救いの道を用意してくださった、ということなのです。以下のことばの通りです。

ロマ4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

ヨハネ5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。

<キリストを信じるものは死後、罪のために罰を受けることはない>

ヨハネ 3:18 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったため、すでにさばかれている。

ここに書かれているように、神の御子であるキリストを信じるものはさばかれず、とがめられず、死後火の池の罰に入ることもありません。キリストが私たちの罪の身代わりになれ、罰を受けられたからです。

<聖書の驚くべき預言！>:無料聖書通信講座案内

一聖書に書かれた未来に関する数千の預言はひとつとして外れたことがない！！

聖書はあらゆる面で人知を超えた書です。神によって書かれたとしか思えないいくつもの性質を持ちます。そのうちの一つは聖書の預言が未来を予言し、しかも全ての預言が的中し続けてきた、という事実です。

過去の歴史と比べてみるなら、過去数千という聖書の預言が成就し続けてきました。たとえば、過去の世界帝国の出現、興亡に関して聖書は預言し、それらはそのことばどおり成就してきました。例を挙げれば、過去の世界帝国バビロニア帝国の首都バビロンに関してその繁栄のまっただ中の日に聖書はそのバビロンは「荒野となり、その宮殿でジャッカルがほえ交わす」と預言しました。このことは正確に成就し、現在のイラクにあるバビロンの遺跡は荒野であり、野の獣やジャッカルの伏すところとなっています。さらに聖書はメディア・ペルシャ帝国、アレキサンダー大王に率いられるギリシャ帝国の興亡に関して、預言し、これらの預言は歴史の中で正確に成就してきました。一体、未来を語り、しかもそれが正確に成就するなどということをどんな人が行うことができるのでしょうか？聖書が神によって書かれた書でなければ、これはありえないことなのです。

さらに同じ聖書は**現在より先の未来に関する**預言を語ります。終末の日に「獣」と呼ばれる世界帝国が出現し、**全世界がその支配の下に入る日**を預言しているのです。さらに聖書は私たちの死後の運命に関する預言も語ります。今まで決して外れることのなかった聖書が語る未来に関することばとともに耳を傾けてみませんか？



未来の世界帝国を預言する聖書ダニエル書の像

当聖書協会では、毎月5名の方限定で無料の聖書通信講座をお送りしています。ご希望の方は以下へ記載の上、申し込みください。セールス等の勧誘はありません、当協会は、家を回るものみの塔とは違います。

無料聖書通信講座申し込みクーポン券 (クーポン番号:RE180201)

申込書

「私はクーポン券同封の上、(クーポン番号記載の上)、無料の聖書通信講座へ申し込みます」

住所：

名前：

電話：

上記を記載の上、以下まで郵送もしくはメール、電話で申し込みください。

183-0044 東京都府中市日鋼町1-3-17-304 聖書通信講座 (クーポン券もしくは番号ない方は受け付け不可)

mail: koukanojisian@yahoo.co.jp tel. 042-364-2327